

# ノーモア・ヒバクシャ通信 第61号

2022年9月29日

ホームページ <http://www.nomore-hibakusha.org>  
継承ブログ <http://keishoblog.com/>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>  
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者  
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
〒102-0085  
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F  
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)  
Email [info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org](mailto:info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org)  
郵便振替口座 00110-5-292881  
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

## 《目次》

- I. 「国連原爆展 in Tokyo」開催のご案内
- II. 「国連原爆展 in Tokyo」クラウドファンディング・募金のお願い
- III. 秋の「ノーモア・ヒバクシャ」関連行事のご案内
  - 1. 「被爆者の足跡」世田谷区巡回展
  - 2. 第16回「被爆者の声をうけつぐ映画祭」2022
  - 3. 大学祭のご紹介 昭和女子大学戦後史PJが2022秋桜祭で研究展示
- IV. 【奈良】『奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い～』（第1集）を刊行！
- V. 『はだしのゲン』所蔵・寄贈要望アンケートについて
- VI. その他
  - 【出版のご案内】西山すすむ『おり鶴さん』

## I. 「国連原爆展 in Tokyo」開催（11/11～13）のご案内

日本被団協は2005年以降、NPT再検討会議の会期中に国連ロビーで「原爆展」を開催してきました。何度も延期され8月に実現した再検討会議に合わせて実施された「国連原爆展2020 ヒロシマ・ナガサキから75年：ヒバクシャ—核兵器廃絶に取り組む勇気ある人々」を、日本において「国連原爆展 in Tokyo」として次の要領で開催することとしました。ご家族やお知り合いの方々をお誘いのうえ、見学されますようご案内申し上げます。また、13日（日）最終日に、見学者・参加者の「交流企画」を予定します。

記

（日 時） 11月11日（金）～13日（日）

（会 場） 日本青年館 1階コンコース・2階ホワイエ

（テーマ） 国連原爆展 in Tokyo～ヒバクシャ—核兵器廃絶に取り組む勇気ある人々～

(主 催) 国連原爆展開催実行委員会

(日本原水爆被害者団体協議会、東京都原爆被害者協議会、埼玉県原爆被害者協議会、神奈川県原爆被災者の会、千葉県原爆被爆者友愛会、日本青年団協議会、日本生活協同組合連合会、東京都生活協同組合連合会、大学生生活協同組合連合会、NPO 法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会)

### 【国連原爆展 in Tokyo 交流のひろば】

(日 時) 11月13日(日) 13:00～16:00

(会 場) 日本青年館8階 Conference Room Yellow

(企 画) 「国連原爆展」をふり返りながら、核兵器廃絶に向けて日本のわたしたちが直面する課題や役割について、みんなで考えてみませんか。

(進 行) 司会：二村睦子(日本生協連常務理事、継承する会理事)

① 問題提起 木戸季市さん(日本被団協事務局長)

～わたしたちはどこまできているのか、国連原爆展と被団協の国際活動をふりかえって～

#### 話題提供

(交渉中) (ニューヨークボランティア)

朝戸理恵子さん(岩波ブックレット「被爆者からあなたに」英訳メンバー)

松田あすかさん(長崎県立大学大学院生、大学生協)

林田光弘さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター<RECNA>特任研究員・元ヒバクシャ国際署名キャンペーン・リーダー)

濱住治郎さん(日本被団協事務局次長、継承する会事務局)

② 参加者交流

参加者同士が自由に発言し、交流します。

## II. 「国連原爆展 in Tokyo」クラウドファンディング・募金のお願い



11月11日(金)～13日(日)

at 日本青年館1階コンコース, 2階ホワイエ

主催：国連原爆展開催実行委員会

日本原水爆被害者団体協議会、日本青年団協議会、ノーモア・ヒバクシャ国際署名を継承する会、日本生活協同組合連合会、東京都生活協同組合連合会、全国大学生生活協同組合連合会、東京大学学生協、東京原爆被害者協議会、物産川原電機協会の会、千葉県原爆被害者友愛会、埼玉県原爆被害者協議会、しらすき会

ニューヨーク国連本部で日本被団協が開催した原爆展を日本に持ち帰り、東京で開催するにあたり既に会場も決めて準備を進めていますが、大量の写真パネルの設置、会場設営等には大きな費用が必要です。この原爆展をより多くの方々に観て頂き、今なお続く原爆の被害に立ち向かい、核兵器廃絶のためにたたかう被爆者の志と運動を継承するために、200万円を目標に「国連原爆展 in Tokyo」開催費用のクラウドファンディング(募金)を行います。皆様のご支援によって継承活動が成立致しますので、是非ともご協力ください。

↓↓クラウドファンディングの募金ご協力はこちら↓↓からお願いします。  
<https://readyfor.jp/projects/106103>（※工事中、間もなくオープンします）



※なお、コンピュータ操作が難しい等の場合は、本会事務局が代わって行いますので、ゆうちょ銀行 一三八支店（店番138）普通0026813 特定非営利活動法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 にお振込み頂き、お名前・金額・「原爆展寄付」などを明記の上 [info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org](mailto:info-kiokuisan@nomore-hibakusha.org) にメール、もしくは03-5216-7757までFAXにてお知らせください。

### Ⅲ. 秋の「ノーモア・ヒバクシャ」関連行事のご案内

#### 1. 世田谷区立平和資料館で「被爆者の足跡」巡回展 開催中

昨秋、昭和女子大学「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」が、被団協運動史料にもとづく4年間の研究の集大成として光葉博物館で開催した特別展「被爆者の足跡」は、各方面に大きな反響を呼びました。

その序章と第Ⅲ部：「あの日」を背負って生きることを中心に抜粋した巡回展が、世田谷区立平和資料館で開かれています。

■ 主 催・会 場：世田谷区立平和資料館

〒154-0001 世田谷区池尻 1-5-27 世田谷公園内

■ 期 間：9月7日（水）～11月7日（月）までの2か月間（毎週火曜日は休館）

■ 入場料：無料

9月17～18日の週末に予定されていたトークイベントのうち18日（日）は、台風の影響で残念ながら中止となりましたが、17日（土）には3人のメンバーが、「自分の意見を積極的に言えるようになった」「広島にいた時には“あの日”のことが中心だったが、その後の人生が大切なことが分かった」など、PJに参加して自身に生じた変化を語り、「Ⅲ章は、個人にフォーカスした展示だが、被爆者は一人一人違う。二度とくり返さないために生きてきた個人の存在を感じてほしい」と展示のみどころを紹介しました。



参加者のなかには、地元で平和教育や被爆者の会とともに「ヒバクシャ国際署名」に取り組んで来られた方々もおられ、日本被団協事務局次長の濱住治郎さんを交え、親しく交流し合うこともできました。

会期は11月7日まで。昨秋の「特別展」を見逃された方はもちろん、ご覧になられた方々も、ぜひ周囲のみなさんをお誘いのうえご覧くださいませようご案内申し上げます。

(詳細は、添付のチラシをご覧ください)

同館の愛称は「せたがや未来の平和観」。常設展示室には、学童疎開や子どもの手紙などの史料や地雷、軍服、千人針といった戦時を伝える多様な実物も数多く展示されています。

館への交通は、渋谷駅(南口ターミナル)から東急バス 渋31 渋32 「自衛隊中央病院入口」下車が便利です。

## 2. 第16回「被爆者の声をうけつぐ映画祭」2022

2006年に日本被団協が50周年を迎えたことをきっかけに企画され、2007年に第1回が開催された本映画祭は、映像や映画での被爆体験の継承を目的にしています。

(日時) 10月8日(土)・9日(日)

(場所) 武蔵大学江古田キャンパス 8号館8階 武蔵大学50周年記念ホール

(主催) 被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員会／武蔵大学社会学部メディア社会学科永田浩三ゼミ

(後援) 日本原水爆被害者団体協議会／ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会／練馬・文化の会

※映画祭の日程・内容の詳細は、同封のチラシをご参照ください。

## 3. 大学祭のご紹介

### 昭和女子大学戦後史プロジェクトが2022秋桜祭で研究展示

みなさま、こんにちは。昭和女子大学の戦後史史料を後世に伝えるプロジェクトです。

戦後史PJでは、本年も昭和女子大学秋桜祭にて研究展示をおこないます。今回の展示では、原水禁運動に勇気づけられて被爆者たちが、独立した運動として被爆者運動を展開していくに至るプロセスをたどります。

ビキニ事件を契機に盛りあがった原水爆禁止運動によって、被爆者の存在が社会へと押し出されたことは、被爆者が立ち上がる最初のきっかけとなりました。ただ被爆者運動が原水禁運動から自立し、現在の力強い歩み始めるにはもう一つの契機があったと考えています。

被爆者運動の自立を促したのは、皮肉にも原水禁運動の分裂でした。核実験停止をめぐる東西両陣営の駆け引き、キューバ危機、新たな核保有国の登場、環境汚染に激しく抵抗するAA諸国など揺れ動く国際情勢のなかで、政治的判断をめぐり、原水禁運動を推進してきた日本原水協が分裂したことは、被爆者たちを大きな混乱に追い込みます。

当時の『被団協連絡』には、被爆者たちの激論の痕跡が多数残されています。「政治対立するくらいなら被爆者救援だけに集中したほうがいい!」「いや、それではだめだ! 核兵器廃絶は被爆者の願いだ!」「原爆の被害とは一体なんなの? 身体が健康であればそれだけでいいのか!」「原水協と手を組むか組まないかで揉めるくらいならば、被爆者だけの原水禁運動でもういいじゃないか!」「いやだめだ! 原水協の支援なしで運動を続けることなどできない!」……。

この激論は「被爆者としてどう考えるのか」の問いを一人一人の被爆者につきつけ、激論の中で被爆者たちは、被爆者の「主体性」と被爆者同士の意見の持ちよりが最も重要なのだとの気づきに至ります。1960年代前半のこの激論の経験こそが、その後の被爆者運動の力強い歩みの根幹となったと私たちは考えるようになりました。

本展示では、冷戦下の緊迫した状況下において、被爆者たちが自らの道を選び取っていく緊張感あるプロセスを、多くの史料引用とともに示す予定です。被爆者たちの決断とプロセスを考えることで、核を巡る様々な議論を噴出させているウクライナ危機を考える材料ともなれば幸いです。

研究展示は、昭和女子大学秋桜祭（2022年11月12日（土）、11月13日（日）10:00～16:00）期間中に、昭和女子大学7号館7階7L02教室にておこなわれます。多くの皆様のご来訪を心よりお待ちしております。



#### IV. 【奈良】『奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い～』（第1集）を刊行！

これまでに発表された手記や、被爆者団体の活動資料は、大切に保管され受け継がれてきたのだろうか。奈良県では、1960年代後半に「奈良原爆被災者の会」が発足。しかし、1970年代半ばには自然消滅したという。約10年の空白期間を経て、1985年に奈良県原爆被害者の会「わかくさの会」が再建発足する。しかし2006年3月末、解散。「わかくさの会」は、約21年の活動期間の

中で、「原爆へ平和の鐘を」と題した全三巻の被爆体験手記集を発行した。しかし、この手記集を全巻原本で収蔵する図書館は、奈良県のみならず全国のどこにも存在しない。私たちは、この失われていく貴重な記憶を、解散した団体の活動の記録を、どの様に継承すればよいのだろうか。本書は、僅かな手がかりを元に、奈良県周辺の埋もれかけた被爆者の声を掘り起こし、まとめたものである。

### 【本書の構成】

第一章では、「わかくさの会」の手記集より承諾いただいた手記を再掲載、さらに手記集に掲載されなかった手記をご紹介します。執筆された被爆者のご家族を中心に、その後のお姿などの追記をお願いした。

第二章は、「わかくさの会」に入会されなかったが個人で活動された被爆者の手記。

第三章は生涯声を上げることができなかった被爆者の姿をご家族が伝える手記をまとめた。

### 【目次（抜粋）】

第1章 「わかくさの会」の被爆体験手記  
第2章 個人で活動された方の被爆体験手記  
第3章 家族から見た被爆者の姿  
奈良県の被爆者団体の歩み  
奈良県における生協の平和の取り組みの歩み  
刊行に寄せて（ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 栗原淑江）

### 【本書について】

1. かつて手記を書いたご本人が健在の場合も故人となられた場合も、復刻の許可をいただくだけでなく、あらたに配偶者・子・孫などによって書かれた手記や聞きとりが収録されている。
2. 戦時中の事柄についての注や被爆当時の地図など、理解を助ける懇切な資料が加えられている。
3. 田中義治さんの場合にみるように、多数残されていた学校証言への子どもたちの感想文から、ご本人が残さなかった被爆状況がリアルに再現されている。

等々の工夫により、手記を書かれた被爆者の生きた姿がより豊かに浮かび上がっています。

「刊行に寄せて（ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会栗原淑江）」より抜粋

発行 奈良県生活協同組合連合会

編集 「奈良県のヒバクシャの声編集委員会」  
代表 入谷方直

手記集をご希望の方に、送料のご負担のみでお送りします。下記までご連絡ください

○ お申し込み、お問い合わせは、奈良県生活協同組合連合会

〒 630-8136 奈良市恋の窪1-2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

E-mail kenren@naracoop.or.jp

## V. 『はだしのゲン』所蔵・寄贈希望アンケートについて

はだしのゲンをひろめる会は、事業の柱に、漫画『はだしのゲン』の英語版『Barefoot Gen』の国内外への普及を掲げていますが、コロナの影響はこのような活動にも影響を及ぼしました。原水禁世界大会・国際会議がオンライン開催になったため、海外代表の来日がなく、寄贈先に頭を抱えることになったのです。しかし、いつまでも『ゲン』を書庫に閉じ込めておくわけにはいきません。寄贈先を国内で探すことを決め、平和博物館を中心とした国内への寄贈に取り組むこと等を確認しました。

同封の資料をご覧頂き、『はだしのゲン』所蔵・寄贈希望アンケートにご回答頂ければ幸甚です。

## VI. その他

### 【出版のご案内】西山すすむ作『おり鶴さん—漫画で描きつづけた被爆者の戦後』

長崎で被爆した漫画家・西山すすむさん（94歳）が「被団協」新聞に連載した4コマ漫画「おり鶴さん」が本になりました。

各地の被爆者仲間の呼びかけでつくられた「おり鶴さん」編集・出版委員会による制作。1979年11月号から月1回、500回にわたって書き継がれ、読者にほっこりした笑いとお励ましを与えつづけてきた作品から335回分をセレクトして編集。執筆時の運動や社会情勢についてのコメントも付記されています。ぜひご覧になって多くの人たちに広めてください。（定価：1,500円＋税。詳細・注文先は、同封のチラシをご参照ください。）